

行歯会だより

第199号

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会)

令和6年10月発行



1 国立保健医療科学院 保健福祉行政管理分野分割前期受講報告 (P.2)

滋賀県 健康医療福祉部健康しが推進課

主幹 若栗 真太郎

2 第40回地域歯科保健研究会(夏ゼミ in さいたま2024)開催報告 (P.4)

埼玉県 狭山保健所広域調整担当

担当課長 小泉 伸秀

3 第40回地域歯科保健研究会(夏ゼミ in さいたま2024)参加報告 (P.5)

静岡県 健康福祉部医療局医療政策課

技師 楠 雄登

4 夏ゼミ in さいたま2024 プレゼミ開催報告 (P.6)

江戸川区 健康部健康サービス課

歯科担当係長 長 優子

5 都道府県 世話役のつぶやき (P.8)

和歌山県 福祉保健部健康局健康推進課

主任 得津 康子

「歯っとサイト(歯科口腔保健の情報提供サイト)」掲載コンテンツ募集!

「歯っとサイト」<https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>では、掲載コンテンツを募集しています。
掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている編集担当宛に御連絡ください。

行歯会だより 200 号記念企画開催中!

・行歯会タイムカプセル <https://forms.gle/CFkAmRSfFEHcaJef8>



行歯会だより 300 号(約 10 年後)の紙面は、どんな話題で盛り上がっているでしょうか。
将来の歯科保健医療や行歯会への夢を語ってみませんか?
皆様からの投稿を行歯会だよりに掲載する予定です。

・「押しコーナー」総選挙 <https://forms.gle/Fahp3D6RgtjycEgS6>



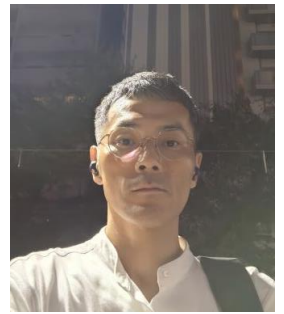
あなたの「押しコーナー」に投票してください!
行歯会だよりにランキングを掲載する予定です。

Ⅰ 国立保健医療科学院 保健福祉行政管理分野分割前期受講報告

滋賀県 健康医療福祉部健康しが推進課

主幹 若栗 真太郎

平素は、有意義な情報の共有をありがとうございます。滋賀県健康しが推進課の若栗と申します。この度、標記研修を受講しましたので行歯会だよりの場を借りて報告します。



Ⅰ 国立保健医療科学院 保健福祉行政管理分野分割前期とは

この研修は、一部の人たちの間で、通称「保健所長コース」「保健所長研修」と呼ばれている研修で、保健所長になる前に受講する研修と認識している方も多いかと思います。受講後すぐに保健所長になる人もいれば、今回の私のように、直近で保健所長になる予定はないが、必要に応じてなれる要件を満たしておくために受講するというシチュエーションもあります。

原稿用紙の空白を埋めるために正式な名称、位置づけを紹介すると、保健所の所長に関して規定している地域保健法施行令第四条2号に記された、「厚生労働省組織令(平成十二年政令第二百五十二号)第百三十五条に規定する国立保健医療科学院の行う養成訓練の課程」です。以下「分割前期」と記載します。

通常は3か月間、埼玉県和光市にある国立保健医療科学院に缶詰で受講するものでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度以降は全部または一部がZoomによるweb研修で行うハイブリッド形式で開催されており、今年度は以下のとおりの配分で実施されました。

4月 9日(火)～4月25日(木):集合研修

4月30日(火)～7月 5日(金):web研修

7月 8日(月)～7月12日(金):集合研修

※ 講義時間はいずれの期間も9:20～16:40(昼休憩12:30～13:30)

今回、研修期間の3か月すべてが集合研修だった場合、通常業務や家庭事情により受講は不可能だったと思います。ハイブリッド形式のおかげで何とか受講することができましたので、新型コロナウイルスパンデミックが残した遺産が正負入り混じっていることを改めて体感しました。

2 受講者たち

今年度の受講者の職種の内訳は医師28人、薬剤師1人、歯科医師1人(私)の30人。それぞれの勤務地は、北は北海道から南は沖縄まで日本全国に分布していました。年齢層も様々で、研修医が修了してすぐの若者から、臨床医から転向した専門医、厚生省を退職した元技官、大学や病院を定年退職した元教授など、バラエティに富んだメンツがそろっていました。科学院によると、過去最高くらいの受講者数だったようで、その運営には大変な苦労が伴い、極端な例を挙げれば、演習用のPCを人数分確保することがやっとの状況で、PCに不具合が出たらどうしようと、冷や冷やものだったそうです。

3 研修科目と研修内容

研修科目は公衆衛生、疫学、保健統計、環境保健、公衆衛生行政、組織経営・管理、対人保健、健康危機管理/感染症、地域診断、行動科学と多岐にわたり、まったく目新しい分野から、これまでの保健所業務、県庁業務で経験した分野、また、大学院時代に学んだことを再勉強する分野まで、幅広く網羅されたものでした。講師陣も、その道のエキスパートやレジェンドが揃いも揃い踏みで、情熱的な先生、個性的な先生、普通の先生による入れ代わり立ち代わりの講義は大変刺激的で、3か月間、飽きることなく、楽しみながら受講することができました。

また、各科目にレポートやプレゼン、口頭試問など、受講者を怠けさせない絶妙な課題付与の工夫が凝らされており、それなりの苦労も伴っていたことをお伝えしておきます。

講義メモでA4のキャンパスノートが3冊埋まるほどの情報量だったため、この場で講義内容を要約して披露することは控えさせていただきますが、受講期間中に印象に残ったことを3つほど紹介させていただきます。

4 分割前期における歯科保健分野

まず、受講者の歯科保健関係の研修に対する反応について紹介します。分割前期の中で歯科保健が扱われたのは、対人保健科目の中の2コマ「歯科保健医療概論」(3時間)および公衆衛生行政科目の中の1コマ「歯科保健政策の動向」

(90分)でした。前者は科学院の福田先生、田野先生、竹田先生による講義で、歯科保健医療に関する疫学、コモンリスクアプローチに絡めた口腔保健対策、フッ化物洗口が主題として取り上げられました。後者は厚生労働省医政局歯科保健課の中園先生による講義で、最近の歯科保健政策の動向を網羅的に紹介するものでした。私たち歯科保健行政職にとってはおなじみの内容ですが、他の受講者の反応は質疑応答を含めて新鮮なものでした。例えば、フッ化物洗口を何故もっと推し進めないのか、という素朴かつ当然の反応です。「普通の反応はこうだよな〜」と、ちょっと嬉しい気分になりつつ、明らかに効果的、効率的な方法が何故、世の中で普及しないのか、そこには社会への影響(好い影響も悪い影響も)が大きい公衆衛生施策の導入の難しさが含まれており、良い教材になっていると感じました。加えて、歯科専門職以外にとっては、歯科保健はまだ未知の分野であることも肌で感じ、他職種への歯科保健の丁寧な説明、アプローチの継続は今後も重要かつ必要なアドボカシーだと痛感しました。

5 新たに保健所長になる方々

次に、新たに保健所長として、住民の健康に寄与しようとする(私以外の)受講者の真摯な態度に感銘を覚えたことを共有したいと思います。今回の受講者には様々な経歴の受講者がいたことを前述しましたが、各研修科目の受講態度、受講後の質疑応答、各種グループワークでの発言や会話を通じて、臨床の第一線で医療に従事してきた使命感と矜持を抱いて分割前期に臨んでいることがひしひしと伝わってきました。その思考の先に、明確に患者(住民)の姿をイメージしている受講姿勢は、臨床から離れ、データ上の健康を扱うことに慣れて久しい私にすると、少し眩しいくらいでした。

新型コロナウイルス対応の経験から、全国の自治体で保健所長の充足が喫緊の課題となっていると思いますが、今後も新しい保健所長が不断に誕生することが予想されます。読者の皆様の職場にも、新保健所長が着任されることがあるかと思いますが、期待と歓びとともに迎えていただけるのではないのでしょうか。

6 統計はみんな苦手

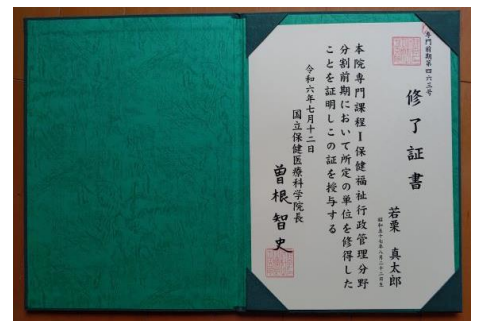
ところで、分割前期と同時に、地域保健福祉専攻科という、各自治体の保健師のリーダーとなることが期待される中堅期以上の保健師が受講する研修が開講されており、こちらには全国から10人の脂の乗った保健師が参加していました。分割前期と地域保健福祉専攻科は、7割くらいのカリキュラムが重なるため、総勢40人で同じ講義、グループワーク、演習の時間を過ごしていたのですが、医師も保健師もこれまでの業務経験に関わらず統計は苦手だということが分かりました。おそらくゴッドハンドと言われていたであろう名医が、慣れない統計処理に苦戦する様子が見られたり、地域保健福祉専攻科の受講生の中には明確に統計への苦手意識を克服することを目標の一つとしていたり、統計の講義が辛いとグループディスカッションで共通話題になったりと、3か月を通して一つのトピックとなっていました。

ただし、驚異的なのはその克服、上達スピードであり、図書室やアマゾンで教科書や演習本を直ちに揃え、日に日に統計やエクセルに慣れていく様子は、前述した受講生の真摯な態度にもつながることであり、モチベーションを刺激してくれました。

7 おわりに

長々と文字を連ねましたが、分割前期を受講した総括としては、良い経験をさせてもらったということです。新たな知見を得ることができましたし、過去12年の職歴で培ったことの整理もできました。得難い仲間(月1くらいで、Zoomで近況報告をし合う機会を持ち続けていますし、10月の公衆衛生学会では対面の同窓会も企画されています。)に巡り合えたということも喜ばしいことでした。結構立派な修了証という目に見える成果物も抽斗に仲間入りしました。私自身は、いろいろなタイミングに恵まれて受講できたため、単純に受講をお勧めするものではありませんが、そのチャンスに出会えた時に逃さないための心づもりは重要だと思います。

分割前期受講時の体験談を語り合える同業者が増加することを願っています。



2 第40回地域歯科保健研究会(夏ゼミ in さいたま2024)開催報告

埼玉県 狭山保健所広域調整担当
担当課長 小泉 伸秀

行歯会会員の皆様には、平素より大変お世話になっております。

埼玉県狭山保健所 小泉と申します。

去る8月3日(土)に彩の国すこやかプラザ(さいたま市)において第40回地域歯科保健研究会(テーマ「語り尽くせ!~その悩み・想いが次代を創る~」)を開催いたしましたので、この場をお借りして簡単に御報告申し上げます。



今年度の夏ゼミではメインターゲットを「新人~中堅」とし、同様に、各グループの進行役も次代の主役たる方々をお願いしました。結果、全国から83名の参加者(初めて及び2~4回目の参加者が60名ほど)、新人だけでなく学生の参加もいただきました。ゼミ長として嬉しい限りでしたが、何より、各グループでの真剣かつ活発な議論の展開、そして参加者皆様の笑顔が生まれましたのは、進行役とサポート(ベテラン)の皆様のお力添えによるものです。心から御礼申し上げます。

埼玉県歯科医師会理事・小宮山和正氏の御挨拶、ゼミ長・小泉の開会宣言にて始まった今年の夏ゼミ。前半の話題提供や後半の定番講演は必要最小限とし、醍醐味たる「グループワーク」の時間確保に努めました。

また、グループ共通の課題7つ(栄養・食育、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期、障害児・者、災害時対応)を10グループに振り分け、とことん議論してもらいました。事前に7課題から希望を取ってグループ分けを行っていたこともあり、参加者皆様の熱量の高さに圧倒されてしまいました。多めに確保したつもりでいた時間も、少なく感じられた参加者がほとんどだったかもしれません。

夏ゼミ in さいたま2024 次第

1. あいさつ 埼玉県歯科医師会理事 小宮山和正氏
2. 開会宣言 ゼミ長 小泉伸秀
3. アイスブレイク 自己紹介+「こう見えて私、〇〇なんです。」
4. ゼミ長企画「あなたの悩み・想いを聞かせて!編」
 - (1) 歯・口腔の健康づくりプラン
埼玉県歯科口腔保健推進計画について ゼミ長 小泉伸秀
 - (2) 新業務指針について 札幌市 秋野憲一氏
 - (3) グループワーク①
5. 持ち寄り企画
 - (1) 8020の里だより 兵庫県香美町 中田和明氏
 - (2) 霞が関だより 厚生労働省 毛利泰士氏
 - (3) 歯科六法コンメンタール 東京歯科大学 平田創一郎氏
 - (4) 歯科保健医療データブック 東京歯科大学 田代宗嗣氏
6. ゼミ長企画「次代を創る!編」
 - (1) グループワーク②
 - (2) 発表
7. ふりかえり 彩の国公衆衛生研究室 遠藤浩正氏
8. 閉会
 - (1) 次期ゼミ長あいさつ 福岡市 新井優花氏
 - (2) 閉会宣言 ゼミ長 小泉伸秀

懇親会(大宮駅ルミネ2 洋食バル 函館五島軒ルミネ大宮店)

<準備委員>

秋野憲一氏、平田創一郎氏、遠藤浩正氏、田村光平氏、田代宗嗣氏、小泉伸秀



まだまだ暑い日もありますが、しっかり季節は進んでいると感じる今日この頃。皆様どうぞ御自愛ください。
次回夏ゼミ in 福岡でお会いしましょう。

末筆ではございますが、講演講師の先生方、準備委員の先生方、社会歯科学会・尾崎哲則氏はじめ関係者の皆様の御支援なくして夏ゼミ開催はできませんでした。多大なるお力添えをいただきまして、感謝の念に堪えません。

見えにくくて大変恐縮ですが、当日の皆様の熱い想いがぎゅっと詰まったまとめを載せて、夏ゼミの報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。



3 第40回地域歯科保健研究会(夏ゼミ in さいたま2024) 参加報告

静岡県 健康福祉部医療局医療政策課
技師 楠 雄登

1 はじめに

私は、本年4月から静岡県庁の健康福祉部医療局医療政策課医療企画班で勤務しております。この度、ご高配を賜り、夏ゼミ参加報告の執筆を仰せつかりました。そのお声掛けをいただいた北九州市保健福祉局健康医療部健康推進課の田中照彦氏に心から厚く御礼申し上げますとともに、平素から御指導をいただいている諸先輩の皆様方にも、この場をお借りして御礼を申し上げます。同時に、静岡県行歯会世話役を務めるようにとの御指示をいただき、より一層身が引き締まる思いでございます。



2 夏ゼミ報告

1日目のプレゼミでは、初めてお目にかかる先生方ばかりでしたのでとても緊張しました。また、行政に関する知識もいまだ不十分な身なので、強い不安もありました。しかしながら、同じプレゼミ班メンバーであった夏ゼミ大会長の小泉伸秀氏(埼玉県保健医療部狭山保健所)をはじめ、田村彩氏(神奈川県健康医療局保健医療部健康増進課)、山田麻矢氏(神奈川県平塚保健福祉事務所保健福祉部保健福祉課)が親しく接してくださったおかげで、次第に不安感は収まっていきました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

2日目には「連携・指導・育成の三方よし」をテーマとして、高齢者歯科の課題を五つ取り上げてグループワークが行われました。すなわち、①オーラルフレイル対策の推進、②へき地における訪問歯科問題、③介護施設での歯科健診の対象者、④MCS(多職種連携ツール)の活用、⑤高齢者への情報伝達方法について、の五つです。とても活発な議論が行われましたので、私自身も来年度以降の事業展開に反映できるよう力を尽くしていく所存です。

また、秋野憲一氏（札幌市保健福祉局ウェルネス推進部）による「地方公共団体における歯科保健医療業務指針」の発表は、歯科医療業務の領域が大幅に刷新されたことを分かりやすく説明したものであり、大変勉強になりました。さらに、来る10月の公衆衛生学会自由集会における「新業務指針が求める市町村によるオーラルフレイル対策」の内容も大変興味深いものであり、当日の講演を一日千秋の思いで待っているところです。

この業務指針の改定に関して、静岡県では、従来の歯科保健業務に加え、地域の実情を踏まえた歯科医療体制を整備していくこととしています。特に、通院が困難な方に対する歯科訪問診療等の情報提供や相談対応、医科歯科連携体制構築のための病診連携研修会等の実施などです。また、保健所の歯科保健担当者との連携を担保し、高濃度フッ化物配合歯磨剤利用推奨の普及啓発とフッ化物洗口の取組により一層努めてまいります。さらに、県は、静岡社会健康医学大学院大学に歯科保健医療提供体制活用事業を委託しており、本年度は「フッ素配合歯磨剤の正しい利用法について」をテーマにポスターを作成中です。完成しましたら行歯会メーリングリストを通じてお披露目したいと考えております。

以上のようなプレゼミ・夏ゼミが終了した後の懇親会では、お酒を飲みながらたくさん先生方とお目にかかることができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。そして、この夏ゼミへの参加は、県の歯科医療の業務を円滑に遂行するために必要不可欠なものであると強く感じました。今回の夏ゼミに参加させていただいたことを今後に生かし、より一層、行政職の諸先輩方や県歯科医師会と緊密に連携させていただき、積極的な事業立ち上げに貢献していきたい所存であります。また、公務員としての中立的な立場を重んじつつ県民の口腔の健康を守ることはもちろん、静岡県が誇るトップレベルの平均寿命・健康寿命の延伸に口腔から寄与していきたいと考えています。

3 さいごに

来年度の夏ゼミは福岡県で行われ、私が所属している研究室の先輩に当たる福岡市役所口腔保健支援センターの新井優花氏が大会長を務められます。福岡県は私が研修医から大学院時代までの4年間お世話になったところでもありますので、何かと思い入れがあります。

私は、高校卒業後まで地元大阪府寝屋川市で育ち、鶴見大学歯学部を卒業後、九州大学大学院では山下喜久先生（九州大学名誉教授）と古田美智子先生（九州大学大学院口腔予防医学分野准教授）からご指導を仰ぎ、国内のみならず海外での学会発表の機会も与えていただきました。大学院時代で培った経験を生かし、常に固定概念にとらわれない歯科医療システムのパラダイムシフトを求めて日々の業務に精進してまいります。

こうして福岡に住んでいた4年間を振り返ると、福岡は、結婚と子育て、そして28歳で行政歯科医師になる機会を与えてくれた所であり、私の人生の転機となった場所であると思っています。

現在は静岡で働いておりますが、これまで手を差し伸べてくださった先生方への御恩を忘れることなく、諸先輩方が作り上げられた歯科口腔保健のますますの推進のために、微力ながら精進してまいります。ふつつか者ではありますが、どうか今後とも御指導御鞭撻いただきますようよろしくお願い申し上げます。

4 夏ゼミ in さいたま2024 プレゼミ報告

江戸川区 健康部健康サービス課
歯科担当係長 長 優子

行歯会会員の皆様、お世話になっております。

ようやく秋の訪れを感じるようになりました。それぞれにご多忙のこととお察ししますが、いかがお過ごしでしょうか。

夏ゼミ in 東京2014のプレゼミ（※）から10年。「また、若手限定のプレゼミをやろう！」

再び、今回は行政に入って10年目までの方を対象にプレゼミを開催しましたので、ご報告します。

※行歯会だより97号（2014年）

https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/contents/No97_20140809.pdf



開催期日：令和6年8月2日（金）

開催場所：東京医科歯科大学M&Dタワー11階

参加人数：32人

テーマ: 歯科保健担当者のスキルアップ講座

主催: 第40回地域歯科保健研究会

世話人: 秋野憲一氏(札幌市)、田村光平氏(東京都)、長優子(江戸川区)

内容:

1. 事例報告

- ① 田村 彩氏(神奈川県健康増進課健康づくりグループ)
- ② 寺地桃未氏(さいたま市緑区役所健康福祉部保健センター)
- ③ 阿部有花氏(習志野市健康福祉部健康支援課)
- ④ 遠藤浩正氏(元埼玉県保健所長)

2. グループで意見交換

- ① 「みんなに聞いてみたい!」に答えよう
- ② 「顔の見える関係」を創るためには何が必要か考えよう
- ③ 「5年後、10年後、こんなことができたらいいな」宣言!

3. 総評

遠藤浩正氏(元埼玉県保健所長)

「みんなに聞いてみたい!」では・・・

- 事業の参加率、健診受診率向上のために効果のあった周知方法は?
 - 関係機関との連携方法は?
 - 他職種や庁内他部署との連携は?
 - 研修会や講演会のネタ探しは?
 - 口腔機能に関する啓発や取組は?
 - 健康教育が苦手ですがアドバイスを!
 - 人材育成は?
 - 歯科職種内で考えが違う場合には?
- 各自から出した問いに、意見交換をしました。

この10年で世代交代は確実に進みました。新たに行政に入られた方々とお会いする度に、スキルの高さや発想の豊かさに感心し、頼もしく嬉しく思います。一方、日常業務はどの自治体も年々多忙になっている気がしますし、コロナ禍で集う機会が減ったことで、息抜きをしたり、仲間とつながる場が、もっとあっていいと感じるようになりました。

時代の変遷のスピードは速く、私をはじめ先輩の経験は参考にならないことも多いと実感していますし、同じ境遇だからこそ分かり合えることがあるでしょうから、若手限定の仲間づくりの機会は重要だと考え、プレゼミを企画しました。

結果、大成功でした! 事例発表をしてくださった若手3名は期待以上に素晴らしかったですし、グループワーク、懇親会と、皆さんのコミユカの高さ、そして笑顔が本当にステキでした。



グループワークには、先輩として「シスターズ」高澤さん(市原市)、小栗さん(愛知県)、楠田さん(熊本県)、小池田さん(さいたま市)の4名に入ってくださいました。私自身のロールモデルであるシスターズからこれまでに学んだことは、行政職としてめざす姿や、視野の広さです。今回のグループワーク最後の「5年後、10年後の自分宣言」では、誰が論じたわけでもないのに、皆さん一人一人の立場から自分の言葉で将来を語られていました。日本の歯科口腔保健の未来は明るい!と、シスターズ共々感動し、元気をもらいました。



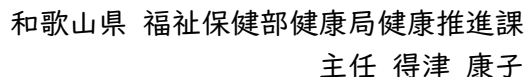
参加者からの感想を一つご紹介します。

『今回プレゼミに参加し、今までやってきたことの振り返りと今後のキャリアビジョンを見直す良いきっかけになりました。公務員の良いところでもある長い目で自分のやりたいことをやり遂げられること、やり遂げるためにも仲間が必要不可欠であること、これからも横のつながりを大切に、仲間を増やしていけたらと思います!!この様な素晴らしい機会を、企画運営していただいた先輩方に心から御礼申し上げます。』

参加してくださった皆さん、ありがとうございます。

平日の夜ということで参加できなかった方も多かったかと思いますが、夏ゼミ、プレゼミはじめ、学会や各種研修会等々に参加した際に、また語り合いましょう!

和歌山県



和歌山県 PR キャラクター
きいちゃん

「高野山」「熊野古道」等の歴史的観光スポット「紀伊山地の霊場と参詣道」は、令和6年7月7日に世界遺産登録20周年を迎えました。温泉・グルメ・アクティビティを満喫できる「[聖地リゾート!和歌山](#)」として皆さんをお待ちしています。ということで、今回は、町歩きの際にも楽しめる和歌山県のソウルスイーツ(?)として親しまれている“グリーンソフト”をご紹介します。かのカリスマロックバンド、ラルクアンシエルのボーカルで和歌山出身のHYDEもこよなく愛する逸品です。1958年に世界初の抹茶入りソフトクリームとして発売されました。気になる方は、“グリーンソフト”でググってみてください。

通勤で使っている JR の駅舎が 9 月にリニューアルされ、高架式、自動改札など、他の都道府県と肩を並べるようになりました。現在は旧駅舎も残っていますので、機会がありましたら、当県にいらしてください。(S)



行歯会だより読者コーナー



行歯会や行歯会だよりへのご感想、ご意見をお聞かせください。

投稿者に確認の上、行歯会だよりに掲載させていただく場合もあります。

<https://forms.gle/q4WYyFL2Tg2ya2oI9>